

2024 年の記録的海洋熱波により和歌山県串本を含む日本各地で サンゴが白化－研究成果が英国科学誌に掲載－

琉球大学や南紀熊野ジオパークセンター等の機関からなる研究グループは、2024 年の記録的な海洋熱波によって、日本の亜熱帯域から温帯域に生息するサンゴ群集が広範囲にわたり深刻な白化を引き起こしたことを明らかにしました。この研究成果は 2026 年（令和 8 年）8 月 25 日付の英国科学誌 Scientific Reports（シュプリングー・ネイチャー社）に掲載されました。

発表の概要

1 研究目的

地球温暖化に伴う海水温上昇によって、サンゴと共生藻類の関係が崩壊する「サンゴの白化」が世界各地で深刻化しています。近年、熱帯から亜熱帯のサンゴの一部は、海水温が比較的低い本州沿岸などの海域に分布を広げており、このような海域は、将来、サンゴが生き残る避難地として重要視されています。2024 年は記録的な海水温上昇となったことで、日本の亜熱帯域から温帯域に生息するサンゴが白化をしたのか、また、温帯域が避難地となる可能性の検証の調査を行いました。

2 主な成果

- ・日本の 8 地点で 2024 年の海水温とサンゴの被度と白化の状況を調査しました。
- ・沖縄県から静岡県まで広範囲において高水温によってサンゴが白化した。
- ・沖縄県瀬底島では、多くのサンゴが白化し、その後、多くのサンゴが死亡した。
- ・和歌山県串本では、多くのサンゴが白化したが、その後、回復して死亡しなかった。
- ・千葉県館山では、高水温にも関わらず、サンゴは白化しなかった。
- ・温帯域へと分布を広げたサンゴも白化していたことで、温帯域は必ずしも避難地ではないかもしれない。
- ・海洋が温暖化する速度は、サンゴが水温の低い北へ分布を広げる速度や環境へ適応する速度よりも早い可能性があります。

3 研究グループ

- 琉球大学理学部 栗原晴子
- 東京大学大学院理学系研究科 山野博哉
- 東京大学大学院農学生命科学研究科 安田仁奈
- 特定非営利活動法人 OWS 横山耕作
- 東北大学大学院理学研究科 安中さやか
- 和歌山県立南紀熊野ジオパークセンター 本郷宙軌
- 東海大学海洋学部 中村雅子、長嶺輝生

4 発表雑誌

英国科学誌 Scientific Reports（シュプリングー・ネイチャー社）

研究成果の詳細は別添資料をご参照ください。



南紀熊野ジオパーク
NANKI KUMANO GEOPARK

（連絡先）南紀熊野ジオパークセンター
担当：本郷
電話：0735-67-7100